



カマキリのえさは何なの

生きて虫を食べる

カマキリは、生きて、動く虫しか食べません。

カマキリは、一つの卵のかたまりから、いちどに、100～150ぴきの子どものカマキリが生まれてきます。生まれてきたばかりの小さいカマキリを、飼っているときは、ショウジョウバエが、庭の木の若い芽や枝につくアリマキをあたえます。ショウジョウバエは、熟しすぎたり、くさりかけたりした果物があると、よく集まってくる小さいハエです。

カマキリは、6～10回、だっ皮をくり返して、成虫になっていきます。このだっ皮をするころには、カやハエをあたえます。成虫になったら、もっと大きいゴキブリやバッタがよいでしょう。

自然の中で、いろいろな虫を食べている

自然の中でのカマキリは、植物の花や葉っぱのおかげでじっと動かないで、えさのこん虫が近くにくるのをまっています。そして、体の正面で、かまのような前足がとどく所まで虫がきたら、前足をのばして獲物をばっとつかまえます。体がまだ小さいころは、花に集まるチョウやハチ、アブなどを食べています。羽がのびて、体が大きくなると、トノサマバッタやアシナガバチ、セミなど、大きい虫もえさにしています。（監修・中山 周平）

